

お楽しみは これからだ!

YAH! ヤー!

2020.08.10
第 15 号

YOU AIN'T HEARD NOTHIN' YET!

コロナ禍でのバランス

“8月の花” 『エーデルワイス』

エーデルワイスという名前は、「高貴な白色」という意味だそうで、別名『アルペン・エーデルワイス』といって、まさにヨーロッパアルプスに在ってこそその花だといえる。ちなみに、スイスの「国花」である。

とにかくエーデルワイスとくれば『サウンドオブミュージック』である。ナチスから逃れるべく音楽会(コンクール)を利用して窮地を脱しようとするシーンは物語のクライマックスだった。もっとも、あんなに上手に歌ってしまっ、かつ表彰なんかされてしまったら、かえって目だっ、拙い事になりはしないかと思ったりもしたが、事実かどうかはともかくとして、少なくともただ時を稼ぐためにと、洋画ではここでわざと下手に歌ったりはしない…エーデルワイスを歌いながら、トラップファミリーが一人ずつ舞台袖に下がり、そのまま逃走劇となる。前半部の「ドレミの歌」などよりはるかにドラマチックな場面となった。ただし、一度だけ舞台で観たことがあるが、そこでは“逃げる”シーンというのはステージでは表現しがたく、長女と恋人の郵便配達人とのバレエシーン、こちらをクライマックスとしていたような印象があるが、なにしろ40年近くも昔のことで、残っている個人資料?ではそういう事になっていた。

じしゆく

家に居ろ!と言ったり、小遣いやるから旅行しろ!と言ったり、はたまたお盆の帰省はとめないが、家族でよくよく考えて決めろ!とか、ああせえこうせえと何かと指示のようなものを出してくるくせに、とどのつまり責任取れないから、自分のことは各自で判断しなさい!ときた。個人責任は当然だが、それでおさまらないから世の中騒然としているわけで、ここにきて、「国におねがいする」、「具体的には自治体の仕事」だの、「厚労省の役目じゃない」、「経産省にその件に関して言及する立場にない」といった「行政の縦割り」なんてことを持ち出されても、国民の側としては対応のしようがないだろう。「いっそ『じっとしている』とでも言ってくれ!」なんて声も聞こえてくるが、これだけは絶対に言うてはならない、誰かが言うのを許してもいけない。揃いもそろってみんなが責任を回避してどうする?!



エーデルワイス

今月のYAH!ね後記-

芙蓉の花言葉と言えば「繊細な美」「しとやかな恋人」ということなので、向日葵とは同じ時期に花を咲かせるものの、まさにその対極に在るというイメージだ。見た目のインパクトでは大きく譲るところだが、「内に秘めたる」情念というか“マグマ溜り”で息をひそめて、静かにしかし着実に増殖していくエネルギーの様子に例えるならば、芙蓉の妖しくもぐっと抑えた姿は、陰を持たない向日葵など、相手として、決してそれに勝るとも劣るものではないだろう。

